

資料名	項目	No.	環境調整委員会委員及び専門部会部員からの意見	回答	対応	意見者
骨子案	1. (仮称) 第3次寒川町環境基本計画策定の背景	1	東日本大震災、さがみ縦貫道路全線開通、新型コロナウイルスがどう環境行政に結びつくのかが見えない。	<p>本資料は骨子案のため、説明不足の箇所がありますが、計画書本編では下記の趣旨により文章化を予定しています。</p> <p>●東日本大震災 計画書の作成の際には、平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震、及びこれに伴う福島第一原子力発電所事故による災害の発生を契機に、我が国のエネルギー問題を取り巻く環境が大きく変わり、さらには環境問題に対する一人ひとりの意識も変化してきたという経緯を記載します。</p> <p>●さがみ縦貫道路全線開通 計画書の作成の際には、圏央道（首都圏中央連絡自動車道）の一部として整備され平成27年3月に全線開通したさがみ縦貫道路により利便性の向上と交通環境が変化したことを記載します。利便性の向上と交通環境の変化は、大気環境の変化やエネルギー利用の変化、地球温暖化対策と密接に関係することと考えられます。</p> <p>●新型コロナ 計画書の作成の際には、令和2年4月7日に宣言された、新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言は、私たちのライフスタイルを一変させる大きな社会的な課題となっていることを記載します。環境基本計画に関わらず行政計画において、コロナウイルスに関する記載や位置付けをどうすべきかは、議論の余地があると思われるので、今後の庁内での大きな検討課題と考えています。環境政策において、これまでの10数年間は、「大量生産、大量消費、大量廃棄型のライフスタイル」を変えることが求められ、利便性よりも環境優先の生活を送ることが推進されてきました。しかし、これらの考え方が、いわゆる「ウイズコロナ」を念頭においたライフスタイルを求められるようになりつつある情勢の中で、環境優先のライフスタイルにも影響が出てくることが予想されつつあります。また、環境課題のひとつであるSDGsの推進にあたっては、SDGsを推進することがコロナ対策に通じることも多方面で議論されつつあります。例えば、神奈川県HPでは「SDGsアクションで新型コロナウイルス感染症を乗り越えよう」という特設ページも設けられているところです。</p>	骨子案としては、現状のままとします。今後、計画書の策定にあたっては、環境調整委員会、専門部会での大きな検討事項となりますので、引き続きご検討をお願いします。	倉見拠点づくり課長
		2	焼却灰の最終処分場を千葉県銚子市から秋田県小坂町に変更したことを記載してはどうか。	最終処分場の変更については、計画書本編における「第2章 寒川町の環境の現状と課題」のうち、リサイクルの状況を述べるところで記載したいと考えます。	骨子案としては、現状のままとします。	倉見拠点づくり課長
	2. 計画の期間	3	総合計画における実施計画の第1次～第3次と合わせて前期、中期、後期の4ヶ年間隔で12年としたのは理解できるが、第4次・第5次の8年間についてはどうするのが読み取れない。	第3次寒川町環境基本計画完了後の計画期間については、やはり総合計画2040の計画期間との整合を図ることを前提として、現時点では(仮称)第4次環境基本計画として8年間の計画期間を設定し、令和15年度から令和18年度の第4次実施計画にあたる4カ年を前期、令和19年度から令和22年度の第5次実施計画にあたる4カ年を後期として設定することをイメージしております。	「■計画の期間」に次のとおり注釈をつけます。 ※R15～R18の第4次実施計画、R19～R22の第5次実施計画の計画期間（8年間）における取り組みは（仮称）第4次環境基本計画において引き継ぐ予定	倉見拠点づくり課長
	3. 寒川町の環境の現状と課題	4	「LED照明の導入以降は、小中学校、町役場等の削減は進んでおらず、省エネ行動の一層の推進が必要」とあるが、どのような取り組みを考えているのか。「削減は進んでない」という記載は必要か。	<p>記載については、「LED照明の導入以降は、小中学校、町役場等の削減は進んでおらず、省エネ行動の一層の推進が必要」を「LED照明の導入以降は、小中学校、町役場等の電気使用量は横ばいであり、省エネ行動の一層の推進が必要」とします。</p> <p>なお、取り組みについては、今後、計画内容を検討していく中で、議論されていくこととなりますが、既に公表されている「平成30年度版寒川町環境報告書 及び地球温暖化対策実行計画（行政編）報告書18P」にも掲載されているように、主な公共施設の電気使用量の推移では、LED照明の導入により防犯灯の電気使用量が減少しているものの、平成25年度以降にLED照明を導入した小中学校、町役場等のその他の施設の電気使用量は横ばいの状況となっています。（小中学校は一部導入）よって、防犯灯の電気使用量の削減が進んでいることに対し、削減が進んでいないのはその他の公共施設であるという評価となり、今後の町の事務事業に関する温室効果ガス削減を考える際に最も大きな課題となります。また、国では地方公共団体が脱炭素社会に向けて、2050年二酸化炭素排出実質ゼロに取り組むことも期待されています。これらを踏まえて、今後の取り組みについて検討する必要があると考えます。</p>	骨子案の記載標記については、「LED照明の導入以降は、小中学校、町役場等の削減は進んでおらず、省エネ行動の一層の推進が必要」を「LED照明の導入以降は、小中学校、町役場等の電気使用量は横ばいであり、省エネ行動の一層の推進が必要」とします。	施設再編課長

資料名	項目	No.	環境調整委員会委員及び 専門部会部員からの意見	回 答	対 応	意見者
骨 子 案	3. 寒川町の環境の現状と課題	5	「健康で安全なまちの形成」の概要「・河川のBODは、一之宮第2排水路及び～」を、「・河川のBODは、一之宮幹線及び～」に修正すべき。なお、一之宮第2排水路は通称名で、法令上の正式名称は一之宮幹線である。	ご指摘を踏まえて修正します。	次のとおり修正します。 ・BOD調査を行っている河川及び幹線において、目久尻川及び一之宮幹線（一之宮第2排水路）で大きく改善。小出川は未達成で高い値で推移。	下水道課長
	4. アンケートによる市民の環境に関する意識、意向	-	※特に意見はありませんでした。	—	—	
	5. 寒川町が目指す望ましい環境像（案）  A案：歴史に育まれた守るべき自然と共生する「“新化”する持続可能なまち」 さむかわ  B案：持続可能な社会の構築に向けた、環境優先の住み心地の良いまち さむかわ  C案：環境と人が共生し、次世代まで良好な環境が受け継がれるまち さむかわ	6	B案：持続可能な社会の構築に向けた、環境優先の住み心地の良いまち さむかわで、環境優先のキーワードは開発行為の支障となる恐れがある。	望ましい環境像については、今後の検討の中で決定していきます。なお、現在、検討を進めている計画の体系（案）では、「基本目標5」において「快適で住みやすい都市環境を構築する」ことを含めています。ここでいう「快適で住みやすい」という概念には、都市としての利便性、快適性を向上させるという意味合いがあると考えております。したがって、ここで言う環境優先とは、環境保全と開発行為が相反するものという前提ではないと考えます。単に自然の保全だけではなく、市民や事業者にとっての利便性や快適性を向上させながら、環境と共生する、時には緑や水辺を創出しながら、持続可能な将来の寒川町をつくっていくというイメージとしての環境優先と考えています。	現時点としては、あくまで候補の一つですので、骨子案としては、現状のままとします。	倉見拠点づくり課長
	6. 計画が対象とする環境の範囲	-	※特に意見はありませんでした。	—	—	
	7. 計画の体系（案）	-	※特に意見はありませんでした。	—	—	
	8. 計画の全体構成（案）	-	※特に意見はありませんでした。	—	—	
	9. その他の意見	-	※特に意見はありませんでした。	—	—	
	アンケート 市民	問19、「環境のまち」としての寒川の将来像	7	「また、新幹線の駅の設置に関して、肯定的な意見と否定的な意見の両方が挙げられた」とあるが、これを記載する必要があるか。	あくまで、速報版の時点ですので、今後の集計で変わる可能性があります。なお、速報の時点ではアンケートの自由意見の中で新幹線の駅に関する記述をされている方が数多くではないですが、複数名いらっしゃいました。単純な記載数では、どちらかというと否定的な意見の方が多かったのですが、少なくとも肯定的な意見もあったので、「肯定的な意見と否定的な意見の両方が挙げられた」という記載としました。逆に、複数あった話題に触れないというのも不自然であり、寒川町の「環境のまち」としての寒川の将来像を考える上で全く関係がない話ではないと思われるので、アンケート結果として記載をしているところであります。	最終集計による結果報告書のとりまとめにあたって、所管課と協議してどのような記載とするか取り扱いを精査します。